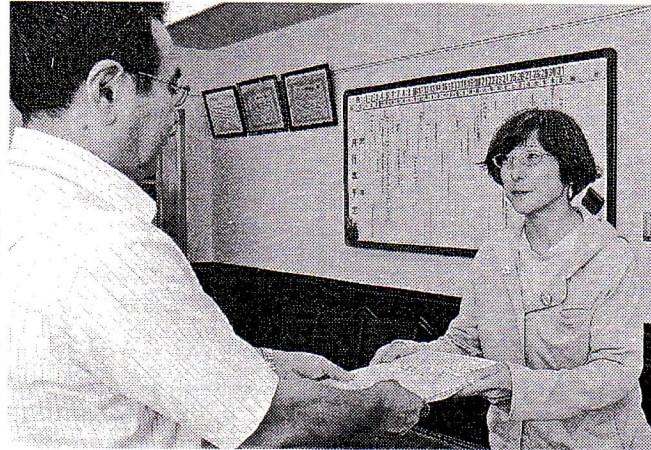


平成24年(2012年)8月30日 (木曜日) (2)

「まち遺産保存・活用を」

市民グループ 南豆製氷応援団 署名705人添え要請

下田市



市民ら705人の署名を添えて楠山市長に旧南豆製氷所の保存・活用を求める英さん＝下田市役所

としての価値を認める県内外の賛同者に協力を呼び掛けてきた。英(はなぶさ)みどり事務局長(49)＝同市六丁目Ⅱが市役所に楠山市長を訪ね「一度は市も価値

を認め購入を検討したことがある施設で、観光資源としての価値は高まっている。下田のまち遺産として保存・活用をいまま一度考えてほしい」と言

つて28日でいったん締め切った。同応援団は引き続き署名運動を継続し、保存・活用の方策を探る方針。旧南豆製氷所は1923(大正12)年に建設された伊豆石造り一部2階建ての建物。2003年

の閉鎖後に解体計画が持ち上がり、一度は市が買い取って保存と活用を行う方向となったが、財政難を理由に断念。代わって東京の男性実業家が購入し、解体にストップをかけた。だが、耐震補強などを含めて1億円以上かかると思われる経費がネックとなり、男性が期待した保存と活用案が地元から示されないまま時間が経過。老朽化が進んで安全対策上問題があると取り壊しを決めた。

下田市内唯一の国の登録有形文化財で、取り壊しの危機にある「旧南豆製氷所」(同市一丁目)の保存と活用を求める市民グループ「南豆製氷応援団」が29日、楠山俊介市長に市民ら705人の署名を添えて支援を要請した。

同応援団は、所有者が建物の老朽化などを理由に文化庁に現状変更(解体)届を提出したことを受けて7月27日から活動を開始。市民や、文化財